



自民党豊島区議団

細川 正博

【被災地訪問レポート】 Vol. 1
～石巻市炊き出しボランティア報告～



平成 23 年 8 月発行

【はじめに】

6/17(金)夜中～6/18(土)にかけて、炊き出しボランティアを行うグループの一員として、石巻市へ行ってきました。

今回は、被災地の様子、炊き出しボランティア、立ち寄らせて頂いた避難所の様子などをお伝え致します。

東京を夜中に出発し、石巻へ明け方に到着。炊き出しの開始予定時間より大分早く到着したので、被災地の様子を自分の目で確認すべく、石巻市の海沿いや、隣の女川町まで足を伸ばしました。

【石巻港付近の様子】

明け方でしたが、既に作業をされている方の姿も。漁港近くはかなり魚の臭いを感じました。



↑石巻港近く。前日の雨で道路が冠水



↑タンクが流され防波堤に…。



↑復興に向け「がんばろう！石巻」

【女川町の様子】

海沿いは相当悲惨な状況でした。女川町を襲った津波は 17m の高さに達したと言われております。



↑建物が横転してしまっております



↑海の近くにあった消防署。



↑やや高台にある役場にも津波が…。

【炊き出し】

今回の炊き出しボランティアのメニューはラーメンでした。

私は初参加でしたが、一緒に行ったボランティアのグループは週末の空き時間に何度も被災地へ訪れ、炊き出しやヘドロの掻き出しなどをやってきている方々です。



↑スープを大きな寸胴で作っています

↑みんなでせっせと仕込み中。

↑スタッフと地元の子も達とパチリ

用意していた約 550 食のラーメンは全て出つくし、その後もある限りの食材で野菜スープを作って振る舞いました。「おいしかった」「ありがとう」のお言葉を頂くと疲労が吹き飛びます。

たった1食でも、被災地の方々の笑顔に繋がったのであれば、本当に行った甲斐がありました。

【避難所の様子】

炊き出し後、近くの鹿妻小学校を訪問致しました。ここの体育館は、現在避難所となっております。

避難所生活で足りないものを何人かの方に伺いましたが、総じて救援物資を強く求めるようなお声はなく、震災後100日を過ぎ、まずは生存をすること、から次のステージに入っているのでしょう。



←避難所となっていた体育館内の様子。

床は断熱材等が敷かれており、段ボールで仕切りが作られていました。

ピーク時にはこの体育館に 1700~1800 名の方々が避難されていたとのこと。

今は 170 名程度で、ピーク時の 10 分の 1 程度です。

仮設住宅に入った方、1階部分は被災したが2階は住居として住める方、などが避難所から退去されたそうです。

【ボランティアに参加して】

3月11日の東日本大震災から100日経っても、まだまだ復興には程遠い被災地が多いことを目の当たりにし、その道のりの険しさを痛感するとともに、日本の国難に対し国民が一丸となって立ち向かう必要性を改めて認識致しました。

豊島区では津波被害の心配はないですが、首都圏を直下型地震が襲った場合には相当の被害が想定されます。被害を最小限に留めるべく、建物の耐震化促進、道路の拡幅等対策を練っていかねばなりません。また、普段からの地域での連携が大切なことは言うまでもないことです。

今回のボランティア参加は、私にとって貴重な体験となりました。現地での経験を区政へも必ず活かす所存です。少しでもお役に立てるように、また現地入りする予定です。

子ども達の世代へ責任ある政治を！！

発行責任者：細川 正博

住 所：〒170-0005

東京都豊島区南大塚 1-51-17

TEL/FAX：03-3945-2530

e-mail：info@hosokawamasahiro.jp

公式サイト：<http://www.hosokawamasahiro.jp/>

Twitter：@toshimahosokawa